

# 暗誦と口授の教材を

訂正・二月号に唱歌「故郷」の歌詞を載せたが、その作詞者作曲者が逆になっていた。正しくは作曲岡野貞一、作詞高野辰之。指摘してくれたのはこの歌を愛す管理者養成研修受講中のジェイオーコスメティックス(株)の市川智章氏。ありがとうございます。ここに訂正してお詫びします。

## 先人の遺産から新教材を選ぶ

道徳の授業は先人の遺した作品と文章の暗誦と正確さとタイムを競う暗誦テストを柱に行えば効果がある。  
教材制作者は作品の選者である。自分で中身を創作する必要はない。埋もれた「名作」を発掘する必要もない。人口に膾炙しているもので十分である。たとえば散文詩の中から選ぶ。たとえば宮沢賢治の「雨にも負けず」の詩。誰でも知っているが全文正確に暗誦できる人は少ない。

「雨にも負けず」  
雨ニモマケズ  
風ニモマケズ  
雪ニモ夏ノ暑サニモ  
マケヌ  
丈夫ナカラダヲモチ  
慾ハナク  
決シテ臆ラズ  
イツモシヅカニワラツテキル  
一日ニ玄米四合ト  
味噌ト少シノ野菜ヲタベ  
アラユルコトヲ  
ジブンヲカンジョウニ入レズニ  
ヨクミキキシワカリ  
シテワスレズ  
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ  
小サナ萱ブキノ小屋ニキテ  
東ニ病氣ノコドモアレバ  
行ッテ看病シテヤリ  
西ニツカレタ母アレバ

経営管理講座 315  
染谷和巳

囲碁は真善美を追求する人間活動である。  
囲碁には哲学があり道徳があり、そして芸術がある。  
囲碁の本質は調和と秩序にありとも言う。  
大胆にして細心細心にして大胆、その両極端を相備え、大をとり小を捨て、先後緩急を誤ることなく、常に大局を達観し、万事において最悪の場合を忘れることなく、その時々の場において最高最善の手を打つこと肝要なり。

囲碁の中には無限の人生訓がある。  
(宮沢賢治・自筆の手帳より)  
漢詩にもいいものがある。  
偶成  
少年易老学難成  
一寸光阴不可轻  
未覺池塘春草夢  
階前梧葉已秋声

## 教師に求められる話し方技術

以上、唱歌と短文の暗誦が道徳教育の柱だと述べてきた。平成三十年からの道徳の授業は五十の唱歌と百の暗誦教材で進めてほしいと思っている。  
これに付け加えるなら、「先生の話し方」である。先生は話し上手でなければ務まらない。説明説得の話し方は教師の必須能力であるが、教育免許の中にこの課題は含まれていないのだろうか。つまり大学の教職課程の中に、人を説得する、大勢の人をひきつける話しをするという授業があるかということ。  
道徳の授業に本腰を入れるなら政府と文科省は教職課程に「話し方」の単位を入れるべし。  
写真の「新編小学修身用書」(モラロジー研究所の復刻版)は



一五〇載っている。  
たとえば巻一の第二十三は「境にある物は他人に譲るべし」の題。  
石田梅岩(石門心学の祖、世界的思想家と見なおされている)、十歳のとき、山に入り、自家所有の地と隣地との境に落ちたり栗の子数顆を拾い、帰りに父に示す。父いわく、「境にある物は、いまだ必ずしも己の物たるを保せず。かくのごときは取らざるをよしとす」と。梅岩、すなわち父の命に従い、その栗子を元のところに持ち行き置きけりという。  
こうした話が載っている。  
授業の前に先生が「これをどう話そうか」予習しておいて話す。この本は子供が読むのではなく先生が読む本である。  
先生が話して聞かせる授業を口授というそうだが、これは口授教材。現在学校で使っている「わたしたちの道徳」は物語が載っているが子供が「読む」スタイルになっている。  
たとえば小学三・四年用の「六セント半のおつり」リンカーンの話。「風のふく、寒い日でした。」「おい、エイブ。今夜は早く食事してねようじゃないか。」「主人のオフエットさんが、言いました。」「そうですね。今日のかん定をすませてください、食事にしますよ。」と始まり、リンカーンが「おつり」を間違って払ったことに気がつき、夜、十キロも離れたお客様をたずねて少額のお金を返す美談を四ペーじ約二千文字で紹介している。  
授業で先生がこれを十行くらいずつ読ませている光景が目につく。授業は道徳ではなく国語の授業になる。「寝る」や「勘定」など三・四年生が習っていない(教えではない)漢字はひらがなになっっているのはそのためである。蛇足だが、学年によって覚える漢字を分けるルールは廃止したほうがいい。小学低学年から画数の

多い漢字もひらがなにならず漢字に振りかたを付けて載せればいい。読み書きテストに出題しなくもいいが、小さい頃から全漢字に触れさせ慣れさせたほうがいい。  
ある幼稚園では蓋微組、桜組、菖蒲組と漢字を使っている。保護者はこれを「よし」と支持前まで(昔「江戸時代から戦前まで」)の教科書は子供ののためにやわらかい物から順々に固い物へなどという、あたたか、配慮はしなかった。そのため昔の日本人の読み書きの力は今の人より何倍も高かった。  
リンカーンの逸話は梅岩のと比べて説得力に欠ける。電気も自動車もない時代、夜往復五時間かけて十円たらずの金を返しに行く話は、川に落としたり一文銭を捜すために何人もの人を使っって何時間もかけた侍の話と似て、道徳より「奇人伝」の題材にふさわしい。  
道徳の時間をおもしろく楽しい授業にしようとするから「わたしたちの道徳」はこうした話を載せてくれるにはどうすればいいかという視点から制作するから、絵や写真の多いカラフルな本になり、「お遊び」の本になっている。  
道徳は天才や奇人の例外的言動を教えるものではない。人としての道、社会人としての常識と規範を教えるものである。この第一目的と正面から取り組まないから、こんな「子供迎合形」の教材ができるのだ。

道徳の物語教科書は、千九郎の「小学修身用書」の形がよい。これから作る教科書にそのまま使える話は三分の一もないだろうから、千九郎が行ったように新聞テレビから情報を得て、道徳の手法となる実例を集めて編纂すればいい。  
それを子供にそれぞれ持たせるが、授業は先生の口授によって進める。よって先生は、まんが日本昔ばなしの常田富士男、市原悦子のごとき名語り部であることが求められる。